

危機管理のエキスパート 麻酔科医

手術の立役者、ここにあり！

病院内の風通しの良さが
西能病院の魅力です

手術はチーム医療！
執刀医を支えます

患者さんの身体にかかる
ストレスのコントロールが、
麻酔科の仕事です



よしやま たけし
部長 吉山 毅 医師
2月に富山市に引っ越してきました。富山を知るためにウォークラリーなどに参加しています。

ますだ あきら
病院長 増田 明 医師
美味しいものを食べるにドライブするのが趣味。五省会 facebook「14の日」コラムもご覧ください。

のほら あけみ
医長 野原 明美 医師
登山が趣味。登山用リュックをリメイクしたり、水筒カバーを自作したりしています。

新コーナー「ようこそお仕事図鑑」では、五省会で働くさまざまな職業の知られざる役割を紹介していきます。第一弾は「麻酔科医」。西能病院 麻酔科の主な業務は、手術での麻酔です。どのように手術に臨んでいるのか、増田明医師、吉山毅医師、野原明美医師にお話をうかがいました。

患者さんの安全を守る 「手術室のパイロット」

「麻酔は通常の眠りとは全くちがいます」と話すのは、長年に渡り当院の手術を見守ってきた増田明病院長。

「普段の睡眠は、痛みを覚えたり時間が経過することで、自然に目が覚めます。麻酔は脳の活動や神経を一時的に麻痺させるので、覚醒させない限り目が覚めることはありません」

そう聞くと麻酔で意識がなくなることを不安に思う方もいるでしょうが、綿密な計画とつぶさな観察によって、手術患者の全身状態をコントロールするのが麻酔科医の仕事です。

麻酔科医の役割は、よく飛行機のパイロットに例えられます。周到な事前準備に始まり、離陸と同様にリスクが高いとされる麻酔の導入を経て、手術中の安定飛行を維持、覚醒という着陸へ導きます。その仕事は術後の疼痛管理というアフターケアにまで及び、執刀する主治医とともに患者さんの安全と安心を多方面から支えています。

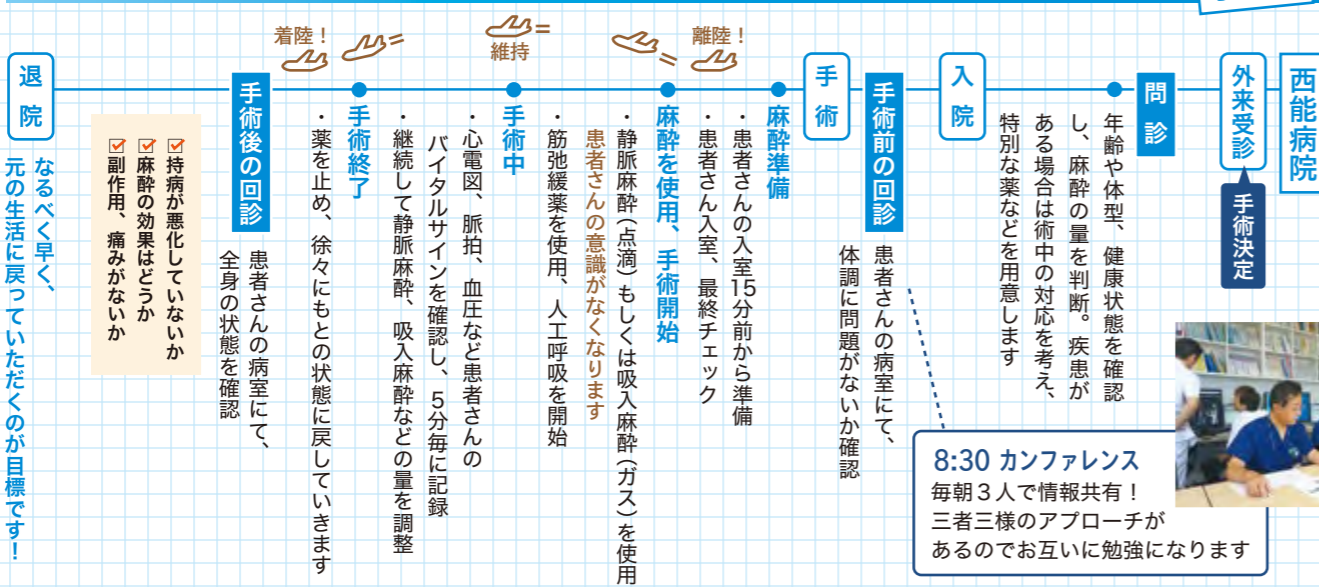
早期回復へ向けて
麻酔科医の工夫
1. ストレスを
ひとつでも減らす！

術前の入院外来の際に、患者さんの体の状態を丁寧に確認します。問診を行い、一人ひとりに合った麻酔の使用、疾患への対応を考えます。また、麻酔薬は術後に吐き気の少ないものを使用するなど、患者さんの負担をできる限り減らす工夫をしています。

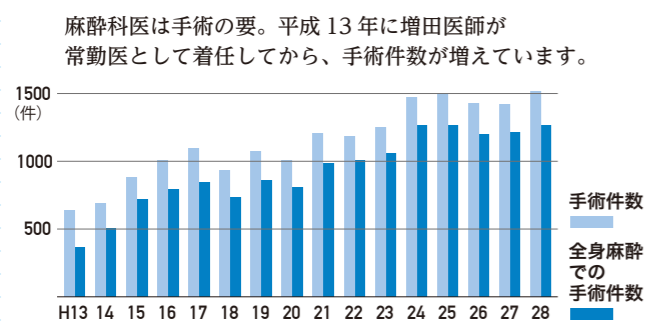
2. 術後回復への取り組み

2005年に海外で発表された術後回復強化策「ERAS」。根拠のある術後回復への取り組みを計画的に実践することで、合併症を抑え、早期の退院、社会復帰を実現しようというものです。国内でも少しずつ見直されてきました。例えば食事。術前から栄養料のスタッフや看護師と連携を図り、術後の絶食時間が長くないよう、また術後安全に食事が取れるよう配慮しています。

麻酔科医の仕事の流れ 手術編



DATA 西能病院の手術件数



Message 手術を受けた患者さんよりメッセージ

（痛みに対する不安なく手術を受けられました）

医師を信頼していたので、不安なく手術に臨めましたし、手術直後は麻酔が効き、痛みも全くありませんでした。深夜、痛みが出た時も迅速に薬を処方してもらい、手術後の対応も丁寧なので、安心して治療に専念できます。

わたなみ たけし
渡波 武志さん
左肩腱板断裂による関節鏡視下腱板断裂手術

Column 患者さんに優しい手術に取り組んでいます

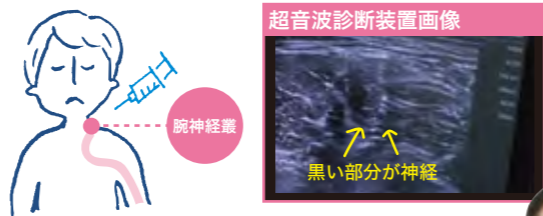
「超音波ガイド下神経ブロック」って？

● 痛みを軽減し、回復も早くなる！

主に術中・術後の痛みが強い肩・膝の手術の際に、全身麻酔薬の補助として用います。手術部位の痛みに関わっている神経を取り囲むように局所麻酔薬を注入し、強力で痛みを取り除きます。全身麻酔薬の量を大幅に減らすことができるため、術後より早くベッドから起きたり、食事をとることができます。

● 肩・腕の手術には腕神経叢ブロック

例えるなら…国道8号を通行止めするようなもの！
首のつけ根にある「腕神経叢」は、鎖骨・腕・手へつながる神経。大きな道路を通行止めし、その先の側道（腕・手など）へ車（痛み）が入れないようにします。



超音波診断装置（エコー）の画像を見ながら注射します。技術が進んで画像が鮮明になり、安全に行えるようになったので普及してきました。

Column 麻酔科の専門外来

顔面・眼瞼痙攣外来

顔面痙攣

顔の片側が痙攣。はじめは眼の周り、次第に口元も痙攣するように。主に中高年層に発症。

- 注射での治療が基本です
- 手術で根治できます

若い患者さんには手術をおすすめしています。手術を希望される場合は、他医療機関をご紹介します。

眼瞼痙攣

眼の周りが痙攣する症状。まぶたに刺激を感じたり、眼が開かなくなることも。→ 注射で治療します

こんな症状、ありませんか？

注射でよくなるので、次はきっと、笑顔で来院されますよ...と、お声がけしているんです。

- **ボツリヌス毒素を注射します**
ハチミツにも含まれる毒素です。注射することで筋肉の動きを止めます。(微量なので全く無害です)
- **2~4ヶ月に1度の注射が必要です**
注射の効果はずっと続くものではありません。定期的に通院していただく必要があります。
- **アラガン社のボトックスという薬を使用しています**
- **健康保険適応ですので、安心してご来院ください**

担当・増田医師
「薬が認可されて以来20年間この治療に携わっています」